

## 「分子生体応答セミナー」を開催

2016年7月14日

7月14日（木）に、がん進展制御研究所4階会議室において、東京大学医学系研究科分子予防医学助教である寺島 裕也先生を招いて、分子生体応答セミナーを開催しました。

セミナーでは「ケモカイン受容体遊走シグナルを標的とした抗がん剤の開発研究」という演題で、現在行っている FROUNT に対する阻害剤の開発と抗がん治療への応用研究を中心に講演をしていただきました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等約 20 名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



# 分子生体応答研究分野セミナー

**日時:**2016年7月14日(木)午後5時

**場所:**がん進展制御研究所・会議室(4階)

**演者:**寺島 裕也 先生  
(東京大学・医学系研究科・分子予防医学・助教)

**演題名:**  
**ケモカイン受容体遊走シグナルを標的とした抗がん剤の開発研究**

がんの増悪化に働くマクロファージ浸潤の制御は、現在のがん治療において未だ達成できていない残された戦略として期待されています。寺島先生は、そのマクロファージ浸潤制御のための新たな標的として、ケモカイン受容体CCR2に会合して、遊走シグナル伝達機構を調節している分子であるFROUNTを、東京大学・松島綱治教授の研究室で発見されました(Nature Immunol 2005, 827)。その後、FROUNTが、別のケモカイン受容体CCR5に会合して、CCR5のシグナル伝達機構にも密接に関与していることも明らかにしています。今回は、現在行っている、FROUNTに対する阻害剤の開発と抗がん治療への応用研究を中心にお話ししていただく予定ですので、多数の方のご来聴を歓迎いたします。

向田 直史(分子生体応答・内線6735)